氏　　名　脇田祥尚（わきた よしひさ）
学位(専攻分野)　博　士（工　学）
学位記番号　論工博第3660号
学位授与の日付　平成14年3月25日
学位授与の要件　学位規則第4条第2項該当
学位論文題目　ロンボク島の空間構造に関する研究　住居・集落に見る地域性の形成に関する考察

論文調査委員　（主査）教授 鉾井修一　教授 高橋康夫　教授 外山　義

論文内容の要旨

本論文は，インドネシア・ロンボク島の空間構造を明らかにし，それに基づき住居・集落に見られる地域性について考察することを目的としたものである。全体は，11章からなり3部に分けられている。第1部ではロンボク島ササック族の住居・集落の空間構成に関する考察を行ない，第2部でのロンボク島の中心都市チャクラヌガラにおける都市空間構成に関する考察をふまえ，第3部で結論を導いている。

1章では研究の目的・意義，位置づけについて述べ，2章で自然生態，歴史的背景，社会構造などロンボク島の概要についてまとめている。

第1部は第3章から第5章までの3章で構成されている。

3章は，「住居・集落の地域類型」と題し，ロンボク島の原住民であるササック族の住居・集落に焦点をあて，住居に関しては2つの，穀倉に関しては4つの，集落に関しては3つの形式があることを示し，それらの地域的な分布をもとに3つの地域類型を抽出している。

4章は，「デサ・バヤンにおける住居・集落の空間構成」と題し，デサ・バヤン（バヤン村）を対象として，住居・集落の空間構成を詳細に分析するとともに，建物の所有状況，日常時・儀礼時のブルガ（東屋）の空間利用に関する考察を行なっている。生活空間におけるブルガの役割の重要性，儀礼とブルガの密接な関係がブルガ所有の存続におよぼす影響，生活空間における様々な床レベルの存在などを明らかにしている。

「ササック族の住居・集落の地域性」と題する5章では，3章，4章の分析を踏まえ，デサ・バヤンの住居・集落の構成要素に対して基層文化やヒンドゥー，イスラームがおよぼした影響について考察し，それに基づいて地域性の形成要因を明らかにしている。

第2部は，第6章から第9章までの4章で構成されている。

6章では，実測した街路寸法と宅地寸法をもとに，ロンボクの中心都市チャクラヌガラには，幅員の異なる3種類の街路によって構成される街路体系と，20宅地を基本とした宅地割りがあることを明らかにしている。

7章では，住区組織（カラン）と祭祀施設との関係について分析を行ない，チャクラヌガラの住区が中心寺院プラ・メルを支える祭祀集団であるカランを単位として構成され，基本的にカランごとにプラ（寺院）が配置されていることを明確にしている。

8章は，ヒンドゥー教徒，イスラーム教徒の住み分けの実態・特性を悉皆調査をもとに明らかにし，イスラーム教徒は周辺部に，ヒンドゥー教徒は中心部に，基本的にカースト毎に住み分けを行なってきたことを示している。特にブラーマナ（最上級階層）は北あるいは東に厚く分布し，バリの方位観に従った住み分けが行われたと結論づけている。

9章では，バリ・ロンボクの王宮・都市の空間構成を参照しつつ，叙事詩「ナガラクルタガマ」の解読を通じて，インドネシアにおけるヒンドゥー王宮やヒンドゥー都市の空間構成を明確にしている。また，それらの考察を踏まえ，チャクガヌガラの都市構成原理を明らかにしている。

第３部は，第10章，第11章の２章で構成されている。

10章では，ロンボク島のバリ人とササック族の聖地の空間構成を明らかにする中で，それぞれの民族の方位観を解明し，住居・集落の空間構成と方位観との強い関係を明らかにしている。

11章は結論にあたる章であり，第１部でのササック族の住居・集落に関する考察，第２部でのチャクラヌガラの都市構成に関する検討結果をまとめ，ロンボク島の空間構造を解明するとともに，10章で明らかにした方位観と住居・集落との強い関係を基礎として地域性が形成されていることを明らかにしている。

論文審査の結果の要旨

本論文は，インドネシア・ロンボク島の中心都市チャクラヌガラならびに原住民であるササック族の住居・集落を対象として，長期間にわたる詳細なフィールドサーベイを行った結果に基づき，ロンボク島の空間構造を明らかにするとともに，住居・集落に見られる地域性について考察することを目的としたものであり，得られた主な成果は以下の通りである。

１．ロンボク島に建設されたバリの植民都市チャクラヌガラには，マルガ，マルガ・ダサ，マルガ・サンガからなる３つの街路体系，ならびに道路に面する20宅地を基本とし80宅地で街区が構成されるという宅地割・街区構成が存在することを明らかにした。

２．チャクラヌガラの中心寺院プラ・メルと各カラン（住区）との関係，ならびにこれらのカランとバリ島の集落との関係を解明し，それにより33のカランならびにプラ（寺院）とプラ・メルの小祠との強い関係が，チャクラヌガラのコミュニティ構成を特徴づけるものであることを明らかにした。

３．チャクラヌガラ全域を対象とした悉皆調査を行い，宗教・民族・カーストにより居住地が異なるという住み分けの実態を明らかにした。特にバリ人に関しては，バリ・ヒンドゥーの方位観にもとづく住み分けがなされていたことを明確にした。

４．地床式住居が一般的なロンボク島にあっても，地床だけでなく，ブルガ（露台）という高床空間を中心とする様々な床レベルが生活空間を構成していることを示した。さらに，ササック族の住居・集落には，２つの住居形式，４つの穀倉の建築形式，３つの集落形式が存在することを明らかにし，その分布から３つの地域類型を導き出した。

５．住居・集落の地域性の形成に関して，コスモロジーの影響を受けるケースと方位観を素朴に反映する場合があることを明らかにした。

以上，本論文は，フィールドサーベイに基づきロンボク島における住居・集落の空間構造を明らかにし，インドネシアを始めとする東南アジアにおける住居・集落に見られる空間構造と地域性の形成に関して新たな知見を提供するものであり，学術上，実際上寄与するところが少なくない。よって，本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また，平成14年２月18日，論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果，合格と認めた。